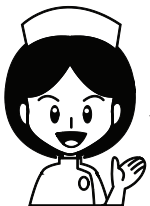


## 乳がんの ホルモン療法 (内分泌療法)

近年、がん治療が進歩し、多くの患者様ががんを克服して社会に戻ることができるようになりました。治療にあたり、医師から十分に説明を受け、不安なことや疑問に思うことは医師・看護師・薬剤師などと相談し、患者様自身が治療について理解することが大切です。

乳がんは、外科的に切除が行なわれ、乳がんが完全に切除されている場合でも再発を予防する目的で手術の後に**ホルモン療法**、あるいは抗癌剤を使った**化学療法**、ときにはその両者を併用して治療が行われることがあります。



ここでは、ホルモン療法で使用される薬について簡単に紹介します。

乳がんには、エストロゲンと呼ばれる女性ホルモンに反応して成長するタイプ、エストロゲンには反応しないタイプがあります。

エストロゲンと呼ばれる女性ホルモンに反応するタイプの乳がんは、成長するために女性ホルモンを必要とします。そこで、乳がんの成長に不適當な環境をつくり再発を防ぐ治療が行なわれますが、これをホルモン療法(内分泌療法)といいます。副作用が少なく、安心して継続していける治療法です。

エストロゲンに反応しない乳がんでも、ホルモン療法は全く効果がないわけではなく、効果が認められる場合があります。



## ホルモン療法の薬を服用するにあたって

- 患者様に最も適した薬の種類や服用期間は医師が判断します。
- 続けて服用しないと効果が期待できないことがあります。  
飲んだり飲まなかったりでは治療は無意味です。
- 飲み忘れたときは気がついた時にすぐに服用して下さい。  
ただし次に服用する時間が近いときは服用せず、次回は通常量を服用してください。

### 副作用は

ほてりや体重増加など一過性なものや軽微なものが多く、長期の服用に適しています。

まれに、性器からの異常出血などが起こることがあります。根気よく服用を続けるため、いつもと異なる症状があったり、分からないことは医師・看護師、あるいは薬剤師に相談してみましょう。

